

第9回令和5年度の研修会は、秋晴れの10月12日（木）に会員16名の参加を得て、熊谷市の歴史や文化という視点で、源宗寺と超願寺を巡りました。

源宗寺には、「平戸の大仏（おおぼとけ）」と呼ばれる二体の巨大な木像「薬師如来坐像」（高さ3.48メートル：写真右）と「観世音菩薩坐像」（高さ3.93メートル：写真左）があり、埼玉県の木像寄木造の仏像としては最大級の大きさと、熊谷市の指定有形文化財に指定されています。

超願寺は、紀伊国屋と熊谷市との関係を現代まで引き継ぐ寺です。表門には、紀伊国屋文左衛門（2代）が寄進したと伝わる紀伊国屋の紋「定紋松葉菱」が確認できます。

当日は、学芸員のガイドのもと「本物を見て、その背景を探る」ということの意義を改めて感じさせられた研修会となりました。

